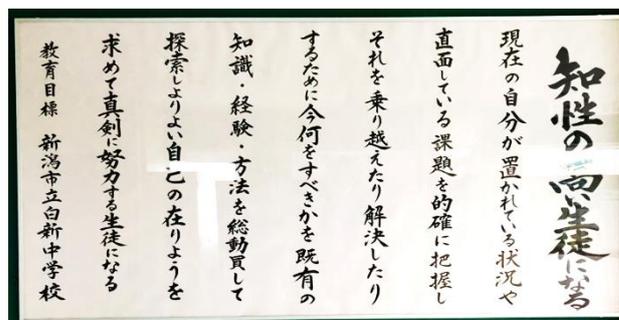




## 【令和6年度 前期学校評価アンケート結果(7月)について】

白新中学校では、教育目標「知性の高い生徒になる」を掲げています。生徒玄関から北斗校舎（職員室のある校舎）へ向かおうとする右手に、この教育目標が意図するところを記した額があります。来校の際には、ぜひご一読ください。変化が激しく予測困難な社会を生き抜く生徒たちだからこそ、今まさに求めたい姿がそこには記されています。



そして、この教育目標のもと、『自己実現に向けて努力する生徒』を目指す生徒とし、その目指す生徒の姿を「自ら考え判断する」「自分の思いを表現する」「認め合い励まし合う」「挑戦しやり抜く」という4つの資質・能力でとらえています。昨年度から、その4つの資質・能力が発揮されている具体的な姿として8つの項目を設定しました。これにより、＜教育目標＞～＜目指す生徒＞～＜育成する資質・能力＞という目標系列による意図した教育課程に基づいた年間の教育活動を計画し、取組の重点を掲げて取り組んでいます。

### 重点1 資質・能力を育む深い学びを目指した授業の充実

生徒の資質・能力を育む上で、日常の授業を生徒にとって魅力的なものにしていくことが何より重要だと考えています。生徒の「考えてみたい」「やってみたい」「挑戦したい」等の興味・関心を授業の中で引き出し、教科を学ぶ価値や楽しさを実感できるようにしていくことで、各教科が好きになり、生徒自ら主体的に学び続ける姿へと繋がっていくと考えます。

生徒アンケートの「(教科)が好き」の割合を重点1の一つの指標としています。表1は、生徒アンケート(7月)の結果です。

表1

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施
	1・2の合計の割合(そのうち1の割合)
①〇〇の教科は好きですか	72% (39%) ※9教科の平均
②〇〇の教科は分かる。	79% (47%) ※9教科の平均

①の「教科が好き」は、72% (昨年度は70%) の生徒が肯定的な評価をしています。しかし、「1 あてはまる」と回答している生徒は39% (昨年度は40%) という実態があります。教員の授業力を高め、生徒の主体的な学びを実現できるよう日常の授業改善に努めてまいります。

3年生を対象に行われた全国学力状況調査の結果は、白中通信6号でお伝えします。併せてご覧ください。

## 重点2 リーダー経験を中心に自己有用感の向上を目指した活動の充実

「体育祭」「演劇発表会」「合唱発表会」の三大大事は、生徒全員がリーダー・フォロワーの役割を理解したり、リーダーシップを発揮したりする機会とし、一人1回以上のリーダー経験ができるようにしています。リーダーを経験する中で、課題を設定し自分で判断して行動したり、フォロワーの立場になって自分のとるべき行動を考えたりする経験を通して、「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という「自己有用感」を育むことができます。

自己有用感を高めることは、「自ら考え判断する・自分の思いを表現する・認め合い励まし合う・挑戦しやり抜く」という資質・能力の育成に繋がると考えています。表2は、重点2に関わる生徒アンケート結果です。

表2

1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①自分の思いや考えを他者に伝えたり、発表したりするようになった。	79% (33%)
②行事や学級、生徒会などの活動で、互いの個性を大切にしながら、協力して活動するようになった。	90% (57%)
③互いの考えの違いを受け入れ、よりよい解決策を見つけることができるようになった	92% (49%)
④目標に向けた取り組みを振り返りながら、継続して努力するようになった。	85% (35%)

生徒アンケートの結果から表2①の「自分の考えを積極的に他者に伝えたり、発表したりするようになった」表2④の「目標に向けた取り組みを振り返りながら、継続して努力するようになった」が他の項目に比べ「1あてはまる」と回答した生徒の数値が低い結果となりました。この結果の背景の一つとして生徒の行動に対する周囲の大人や生徒からの「価値付け」に課題があると捉えています。「認めてくれた」「褒めてくれた」「頑張りを見てくれている」という思いが「安心感」や「さらに改善して頑張ろう」という次の行動への動機へと繋がっていくと考えます。

## 重点3 自己理解につながる多様な価値観に触れる機会の充実

学校は、今そしてこれからを生きる生徒にとって、未来の社会に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもあります。学校そのものが、生徒や教員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会であり、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められたり、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感をもつことができる場であると考えます。このような実感が、生徒の主体的な学びや学んだことを人生やこれからの社会づくりの中で生かしていく姿へと繋がっていくと考えます。

このような姿を目指すために、「地域と関わることを軸に自分の生き方を見つめ直す総合学習」の充実に取り組んでいます。具体的には、図1のようにターム制を採用し、職場体験や地域課題解決学習等、多様な価値観に触れる機会を設定しています。表3は、重点3に関わる生徒アンケートの結果です。

<図1>

● **総合的な学習の時間** ●

～地域と関わることを軸に自分の生き方を見つめ直します～

<p><b>【地域を知る】</b> ～興味をもつ～</p> <p>1年生の総合学習では、地域の歴史や文化を理解するために地域の方から話を聞いたり、歴史博物館を訪れたりする活動や職場体験学習を通して地域の現在を学びます。また、演劇発表会では地域の歴史と伝統を「新潟樽きぬた～明和義人口伝～」という題材で表現し、生徒は地域の過去や文化に触れることで、その意味を理解します。</p>	<p><b>【地域に貢献する①】</b> ～課題を設定する～</p> <p>2年生の総合学習では、地域の課題発見に焦点が当てられます。生徒は地域の現状を分析し、課題を明らかにします。その後、関係者へのインタビューやフィールドワークを通して解決策を模索し、地域の実際のニーズや問題点を探ります。このプロセスを通じて、生徒は地域の課題について深く理解し、解決策を提案する能力を養います。</p>	<p><b>【地域に貢献する②】</b> ～実行する～</p> <p>2年生の総合学習では、地域の課題解決に積極的に取り組みます。課題を設定し、フィールドワークやインタビューで情報を収集し、具体的な解決策を模索します。プロジェクトを立ち上げて地域の問題解決に取り組み、演劇発表会では地域や企業との協力を通して課題解決に挑みます。生徒は自己実現と責任の重要性を学びます。</p>	<p><b>【自分を見つめる】</b> ～振り返る～</p> <p>3年生の総合学習では、中学校3年間の経験を振り返り、将来の生き方を考えます。キャリアパスポートや未来への足跡ノートを使い、自己理解や進路についての考えを整理し、演劇発表会で葛藤や成長を表現します。卒業発表会では自信をもって過ごした3年間の振り返り、将来の決意や目標を示します。生徒は自己実現に向けた成長と将来への展望を語ります。</p>
--	---	--	--

表3

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①自分にはよいところがあります。	<b>77% (32%)</b>
②地域や学校で先生以外の大人から褒められたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります。	<b>83% (59%)</b>
③地域のこと（自然・歴史・産業など）にふれたり、調べたりする学習は好きです。	<b>67% (27%)</b>
④地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。	<b>77% (37%)</b>

表3①の「自分にはよいところがある」の数値が昨年度よりも10ポイント高い（昨年度67%）「1 あてはまる」と回答した生徒（23%）結果となりました。学校では、昨年度から、「ポジティブフィードバック」を意識して一人一人のよさを自覚できるように指導・支援しています。後期はさらに、生徒の頑張りや外にも積極的に発信することで、保護者や地域の方からも価値付けていただけるよう取り組んでいきます。

学校と地域が連携して、子供たちが多様な価値観に触れる機会を創り出すことはできています。表3②の「地域や学校で先生以外の大人から褒められたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります」の数値は、「1 あてはまる」と回答した生徒が昨年度よりも20ポイントも高い結果となりました。生徒は他者との良好な関係の中で活動することができています。

<ポジティブフィードバックのポイント>

- よかった点を具体的に伝える。
- 原則、即時行う。
- 人前だとなお良い。
- 言葉と身振りで示す（心を込める）。
- これからの課題についての助言する。

## 重点4 個別の課題に応じた指導・支援の充実

生徒一人一人が安全・安心に学校生活を送ることができる学校を目指しています。そのために、今年度は次の点に力を入れて教職員が一丸となって取り組んでいます。

- 教育相談の充実
- 生活習慣改善（調査・支援）に向けた睡眠を中心とした健康教育の充実
- ケース会議を核とした課題把握と役割分担を明確にした指導・支援体制の強化
- 校内教育支援センター(校内適応指導教室)での支援体制の強化と関係諸機関との連携の強化

表4は、重点4に関わる生徒アンケートの結果です。

表4

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①困ったことがあれば誰かに相談することができる。	<b>82%</b> (53%)
②学校の中に居心地のよい場所がある。	<b>91%</b> (58%)
③「放課後デザイナー活動」に楽しんで参加している。	<b>63%</b> (49%)

表4②「学校の中に居心地のよい場所がある」の数値は、「1 あてはまる」と回答した生徒が昨年度よりも8ポイント高い結果となりました。③「放課後デザイナー活動」に楽しんで参加していると「1 あてはまる」と回答した生徒がおよそ半数でした。昨年度の部活動改革により、新たに生まれた教育活動「放課後デザイナー活動」において、生徒が「やりたい・実現したい」活動を生徒自らが企画し、自主的自発的に活動することを通して、今後、学校内に新たな居場所が生まれていくことが考えられます。

また、アンケートの結果だけでなく、日常での生徒の様子や悩み等に寄り添いながら継続して安全・安心に学校生活を送ることができよう努めていきます。保護者の皆様のご協力をいただきながら、次の点を目指して取り組んでいきます。

- 生徒は、健康に学校生活を送ることができる生活の質を高めるための生活リズムを整える。
- 家庭は、生徒に健康な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立させる。
- 教員は、睡眠を含めた健康状態、各種指標を参考にしながら、一人ひとりの生徒理解に努める。
- 教師は、魅力ある授業づくりを通して、「明日も行きたくなる」魅力ある学校づくりに努める。

## 白新中の SNS 情報はこちら！

学校HPやInstagram等で、白新中学校の様子をお届けしています。ぜひご覧ください。

白新中学校HP



Instagram



### 4つの資質・能力について

昨年度から、資質・能力を「生徒」「教員」「保護者」の三者にアンケートを実施し、数値からその意識の違いを分析し、今後の指導・支援に繋げていきたいと考えています。次の表5は三者アンケートの結果です。

表5

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

資質・能力	生徒の項目		教員の項目	保護者の項目	生徒	教員	保護者
					「1」「2」 の合計	「1」「2」 の合計	「1」「2」 の合計
自ら考え 判断する	1	何かを選ぶときや決めるとき、なんとなくではなく理由や根拠をもとに考えるようになった。	生徒が何かを選ぶときや決めるときに、その理由や根拠を問うようにしている。	何かを選ぶときや決めるときに、お子さんに自分なりの理由や根拠を確認した上で自己決定させるようにしている。	91%	96%	92%
	2	何かを選ぶときや決めるとき、他者の考えを含めて考えるようになった。	生徒が何かを選ぶときや決めるときに、多数決ではなく、対話を通して合意形成するように働きかけている。	お子さんが、何かを選ぶときや決めるときに、他者の考えを聞いた上で自分の考えを決めさせている。	92%	92%	91%
自分の思 いを表現 する。	3	自分の思いや考えを他者に伝えたり、発表したりするようになった。	生徒が自分の思いや考えを伝えたり、発表したりする機会を設定している。	お子さんの話をさえぎらずに、最後まで聴くようにしている。	79%	91%	79%
	4	自分の思いや考えを伝えるときに、伝え方を工夫するようになった。	日常の授業の中で、相手に伝わりやすい表現方法の工夫を指導・働きかけている。	お子さんに話をするときには、伝わるように話している。	81%	78%	95%
認め合い 励まし合う	5	行事や学級、生徒会などの活動で、互いの個性を大切にしながら、協力して活動するようになった。	行事や学級、生徒会などの活動で、リーダーとフォロワーについて働きかけ、よりよい関係づくりに取り組んでいる。	お子さんと、家庭で自分がやりたいことや頑張っていることについて話している。	91%	88%	90%
	6	互いの考えの違いを受け入れ、よりよい解決策を見つけることができるようになった。	対話を通して納得解を見出すように働きかけている。	お子さんと、他の生徒のよいところや頑張っている様子を話している。	92%	83%	83%
挑戦し やり抜く	7	自分の成長に向けて、前向きな目標をもつようになった。	生徒が自分を成長させる具体的な目標をもてるように働きかけている。	保護者の生活・趣味・仕事など、目標をもって努力していることについて話したりしながら、目標をもつ大切さを伝えている。	83%	70%	81%
	8	目標に向けた取り組みを振り返りながら、継続して努力するようになった。	生徒が目標に向けて挑戦・努力しているプロセスを具体的に価値付けている。	お子さんが継続して努力していることを見つけて伝えている。	85%	83%	84%

昨年度、他の項目に比して低かった項目3「自分の思いや考えを他者に伝えたり、発表したりするようになった（生徒）」は、12ポイント上昇しました（○）。一方、保護者の反応はやや下がっています（□：昨年度より7ポイント減）。自分の思いを話すことを促したり、考えがまとまるまで少し待ったりすることに意識していただくと、子供の主体性が伸びていくと考えます。ご家庭との連携をお願いいたします。